

<要旨>

国際金融秩序の再編と脱貧困・脱炭素

山村延郎(拓殖大学)

本報告は、企画全体の導入・統合（フレーミング）を担う。まずブレトンウッズ体制からMDGs/SDGs・パリ協定までの制度史を踏まえ、国際金融の究極目的が一貫して平和秩序の維持にあり、その中で政策重心が貧困削減から脱炭素へ移行した経緯を位置づける。さらに、EU 規制の域外効果と日本の対応（市場圧力・間接的強制）を対照し、米中・グローバルサウスをポストコロニアルの視点で簡潔に整理し、経済学的な論点としては「情報非対称の是正」と「公正な移行」を提示する。もって、後続のEU 法制度（石田）・英国の政策展開（吉田）への橋渡しを行う。